



活力ある学校づくりをめざして 学校統合を進めます

統合問題懇談会の開催

8月4日から10日の間、町内4地区で、各地区の教育関係者や議会、自治会、婦人会、民生委員、PTA役員、学校等の代表者で構成する学校統合問題懇談会を開催しました。教育委員会から統合の必要性や基本的な統合方針、スケジュール等を説明しました。各委員からさまざまな意見がでましたが、各地区とも中学校の統合は必要だという意見が多数でした。

保護者説明会の開催

9月12日から26日まで、



町内8か所の中学校区ごとに小・中学校保護者対象の説明会を開催しました。これまで本町の中学校教育は多くの成果を上げつつも、各学校が、生徒数の減少による教育課題を抱えるようになりました。教育委員会から「統合でめざす学校像」と長期的展望に立つ「2校案と4校案および通学手段」を中心に次のような説明をし、意見を聞きました。

統合で目指す学校像

生徒減少からくる各学校の教育課題を克服し、時代と社会に対応できる生徒の育成と学校の創造をめざし

統合の概要

まず、学校や学級の生徒数の増加により、たくましさや正しい競争力の備わった中学校生活をさせ、学力向上、部活動や学校行事・委員会活動等の活性化を図り、教育施設・設備、教育水準の充実・向上を期します。

(1) 2校案の場合

ア 中心校

東部地区、西部地区の2校案。西部地区は大島中学校、東部地区は東和中学校または日良居中学校を(案)として提示しました。

(2) 4校案の場合

ア 中心校

大島中、久賀中、東和中、安下庄中学校を(案)としています。

イ 生徒数および学級数
89名から117名の規模

イ 中心校の位置選定理由
中心校は、全ての地区からの通学の利便性を考慮した選定。今後、耐震診断結果による校舎の補修、改築等の程度により中心校の位置の変更もあります。
なお、候補校の内、2校では、教室の増築が必要。
ウ 生徒数および学級数
西部地区の生徒数は207名で9学級、東部地区の生徒数は194名で8学級を想定。この場合、全学年でクラス替えが可能です。

となり、一部の学校ではクラス替えが可能です。
この場合、早期統合が可能ですが、10年以内に再統合の検討が必要です。
ウ 教員数
1校は11名になります
が、他の3校は9名で現在と変わりません。

エ 教員数
西部地区は16名、東部地区は14名。全教科で、正規の教諭配置の可能性が高くなります。
オ 通学手段
遠距離通学者は、スクー
ルバスおよび公共バスによる通学。

エ 中心校の位置選定理由
交通の利便性、施設面から学校の位置を判断しました。
オ 通学手段
2校案と同じ
カ 通学区域
これまでの通学区域が基本ですが、日良居中学校区、蒲野中学校区、出井、家房地区は、自由校区を設ける予定です。

※両案とも生徒数、学級数、教員数は、平成19年度の予測。現状の施設・設備を利用するため校舎の新築は考えていません。

◆問い合わせ先

周防大島町教育委員会
78-2206